

敷地周辺陸域の地質・地質構造に関する調査結果について

1. 目的

敷地周辺陸域の断層評価については、原子力発電所の新規制基準（2013年7月8日施行）及び審査ガイド（2013年6月19日制定）<sup>(注)</sup>において、表1に示すとおり活断層の認定基準が変更となったことを踏まえ、敷地周辺に分布する断層の活動性評価のデータ拡充のため、自主的にボーリング調査等を実施しました。（調査計画の概要について2013年5月13日お知らせ済み）

(注) 核燃料施設等における新規制基準は、原子力発電所の新規制基準及び審査ガイドを準用することとなった。

表1. 活断層の認定基準

《従来基準》 発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針	《新規制基準》 敷地内及び敷地周辺の 地質・地質構造調査に係る審査ガイド
<p>5.(2)①</p> <p>i)耐震設計上考慮する活断層としては、後期更新世以降の活動が否定できないものとする。なお、その認定に際しては最終間氷期<sup>(注)</sup>の地層又は地形面に断層による変位・変形が認められるか否かによることができる。</p> <p>(注) 約8～13万年前</p>	<p>2.1 基本方針</p> <p>(1)「将来活動する可能性のある断層等」は、後期更新世以降(約12～13万年前以降)の活動が否定できないものとする。</p> <p>(2)その認定に当たって、後期更新世(約12～13万年前)の地形面又は地層が欠如する等、後期更新世以降の活動性が明確に判断できない場合には、中期更新世以降(約40万年前以降)まで遡って地形、地質・地質構造及び応力場等を総合的に検討した上で活動性を評価すること。</p>

2. 調査概要

調査項目	調査地点
空中写真判読	七戸西方断層南方
地表地質調査	七戸西方断層南方
ボーリング調査、コアドリル	出戸西方断層北方および南方
火山灰分析	
反射法地震探査	出戸西方断層南方

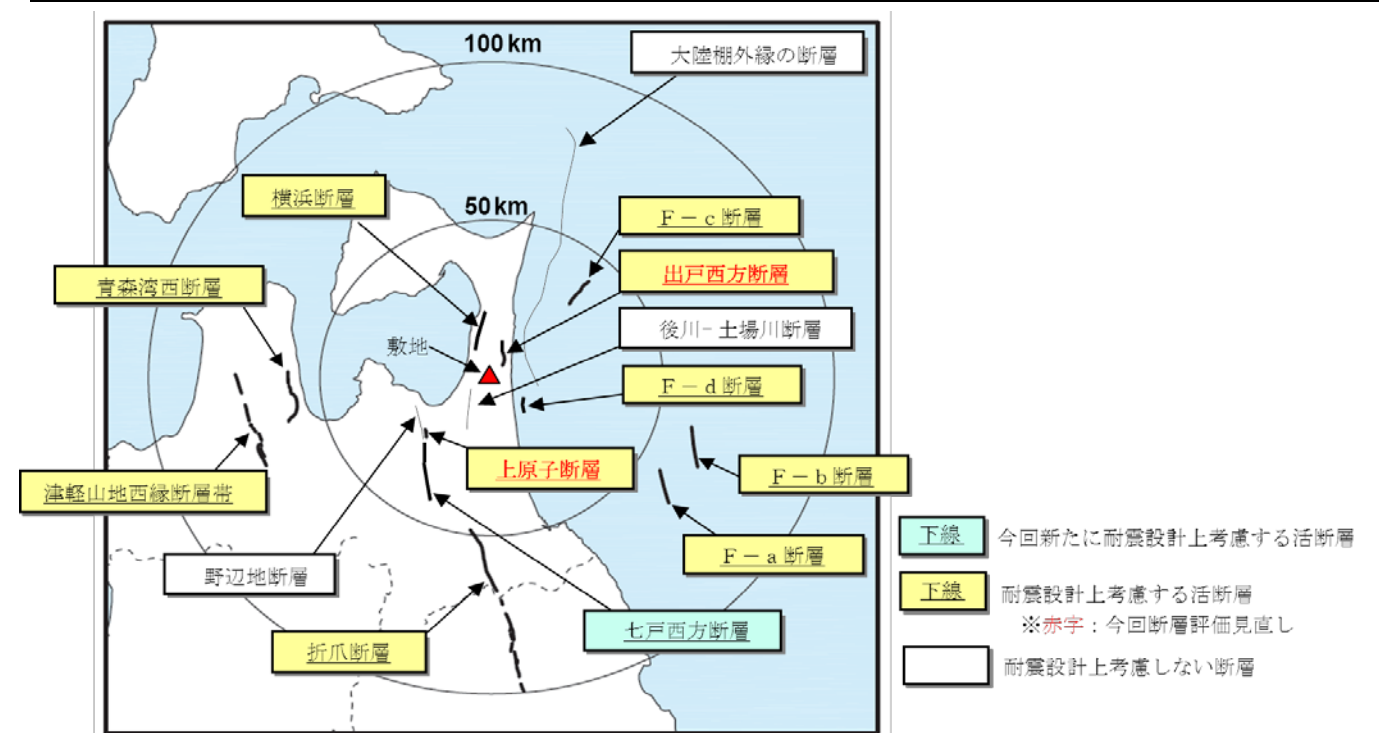
○調査期間：2013年4月～2013年12月

3. 調査結果を踏まえた敷地周辺陸域の断層活動性評価および施設の耐震安全性評価について

調査結果を踏まえ、敷地周辺の地質・地質構造について総合的に検討した結果、表2のとおり活動性評価を変更することとしました。これらの断層活動を想定した場合の施設への影響については、これまでの基準地震動 Ss(450gal)に包含されることから、施設の耐震安全性に及ぼす影響はないと評価しております。

表2. 従来評価からの変更点

断層名	従来評価	今回の評価	変更理由
出戸西方断層	活断層と評価 (約6km)	活断層と評価 (約10km)	従来、北端は約8万年前の地層で評価していたことから、安全評価上、より北方の40万年前より古い地層の地点を北端とし、断層長さを変更。
七戸西方断層	活断層として 評価せず	活断層と評価 (約22km)	従来、約8万年前の地層で活動性を否定していたが、約12～13万年前の地層等はなく、将来活動する可能性を明確に否定できないことから、リニアメント・変動地形の判読される区間について活動性を考慮。
上原子断層	活断層と評価 (約5km)	活断層と評価 (約5km) 七戸西方断層との 連動を考慮	七戸西方断層と上原子断層は、一連の活動の可能性が否定できないため、地震動評価上連動を評価(約27km)。



敷地周辺の断層分布図

以上